

めでいかすとり
Médicastre



「 夕 日 」

鶴岡地区医療学術懇話会抄録

日 時：平成26年3月13日(木) 19:00～
場 所：東京第一ホテル鶴岡

『メタボリックシンドローム時代における 排尿障害の診療について 一生活習慣病と下部尿路疾患一』

東北労災病院泌尿器科
浪間 孝重 先生

今日、下部尿路症状をもたらす様々な疾患がメタボリックシンドローム引いては生活習慣病の発症と密接に関連していることが指摘されてきている。今回生活習慣病との関連性が示唆されている下部尿路疾患を取り上げてみたい。

1) 脳卒中と過活動膀胱

過活動膀胱は、2002年に国際禁制学会により「尿意切迫感を中核症状とし、通常は頻尿および夜間頻尿を伴い、切迫性尿失禁を伴うこともあれば伴わないこともある症状症候群」と定義された。過活動膀胱の病因は神経疾患が原因の神経因性過活動膀胱とそれ以外の非神経因性過活動膀胱に大別される。そして神経因性過活動膀胱の代表的疾患が脳卒中である。

2) 心臓病と夜間頻尿

夜間頻尿は、「夜間に排尿のために1回以上起きなければならないという愁訴」と定義されている。東北大の中川らは2回以上の夜間頻尿で男女ともに生存率が低下することを報告しており、生命に関わる重篤な疾患の初期症状の可能性が指摘されている。その傍証として、夜間頻尿は冠疾患による死亡の独立した危険因子で

あると報告したBursztynらのコホート研究がある。

3) 高血圧と前立腺肥大症

前立腺肥大症と診断された日本人4500名を対象とした研究では、高血圧と下部尿路症状とりわけ蓄尿症状との関連が指摘されている。蓄尿症状を重症度から3段階に分類し、高血圧の合併頻度をみると蓄尿症状が重症なほど高血圧の合併頻度が有意に高率であった。

4) 糖尿病と神経因性膀胱

糖尿病の泌尿器科合併症には、腎症、勃起不全と並んで神経因性膀胱がある。典型的な糖尿病性神経因性膀胱は、尿意鈍麻、膀胱容量増大、排尿筋収縮力低下、残尿増加および括約筋機能温存で特徴付けられており、求心路有意の末梢性自律神経障害が原因とされている。

5) 最後に

加齢とともに増加する過活動膀胱や前立腺肥大症は、その病因論から見直すとメタボリックシンドロームがもたらす動脈硬化や自律神経過緊張を原因とした膀胱や前立腺の生活習慣病といえるのかもしれない。

荘内地区健康管理センター30周年記念祝賀会



日 時：平成26年3月14日(金) 19：00～
場 所：グランドエル・サン

昭和59年4月開所した荘内地区健康管理センターの30周年を記念して、鶴岡市長、三川町長はじめご来賓の皆様、会員、職員107名が出席し祝賀会を開催いたしました。三原会長が「医師会は現在七つの事業を運営しているが、その原点は30年前に設立された健康管理センターにある。センターが果たしている役割の大きさと、設立につくした諸先輩方の先見性に感服する」とした上で、「超高齢社会が進む中、健康であることが自立の基本。人間ドックや健診の役割が今まで以上に重要になり、これからも地域住民の健康管理機関としての責務を果たしていきたい」と述べられました。

ご来賓の榎本政規鶴岡市長、栗谷義樹県医師会副会長、加藤紘一前衆議院議員からご祝辞を頂き、盛大に鏡開きを行いました。その後、30年間の歩みを振り返り、これからも健診を通して住民の健康を支えていく決意を新たにしてお開きとなりました。

事業推進課長 木村 由美



日 時：平成26年2月23日(日) 15:00～
場 所：ホテルリッチ&ガーデン酒田

庄内地域医療情報ネットワーク研究大会

地域医療連携室室長 中村 秀幸

平成26年2月23日(日)午後3時よりホテルリッチ&ガーデン酒田において、庄内地域の医療連携の促進及びちょうかいネットの利用拡大を目的として開催されました。参加者は98名でした。

ちょうかいネットは、ID-Linkという仕組みを利用した、庄内全域での医療情報ネットワークで、酒田では、日本海総合病院、本間病院、鶴岡では庄内病院、Net4Uが開示施設となり、数多くの診療所、訪問看護ステーション、調剤薬局、介護施設などが参加しています。稼働してちょうど3年が経ちました。



今回の研究大会では、ゲストとして山形大学医学部医療政策学講座教授の村上先生をお招きし、医療制度改革について講演して頂きました。トピックは、人口減少と更に進む超高齢社会を見据えた病院機能の再編です。1:7基準病棟を減らし、亜急性期入院医療を充実させる方向にあるようです。また、在宅支援に特化した地域包括ケア病棟が新設されるとのことでした。

山形県の人口は年間1万人の割合で減ってきています。高齢患者の増加で平均在院日数が長期化しており、対策として急性期の集約化、後方病院機能の確保と地域包括ケアの構築が急務であり、地域の行政と医師会との協力・協働が必須です。今回の改定では、地域包括ケア病棟の新設と主治医機能の評価（地域包括診療料、1503点 月1回）、それに病床機能報告制度を創設し、地域の各医療機関が担っている機能の現状を把握し、地域医療ビジョン策定への資料としたいそうです。

診療の役割機能の分担と連携にはICT活用の重要性が高まってきているとのことでした。

後半は酒田、鶴岡から6つの事例報告がありました。私の立ち位置は演題2の、佐藤顕先生と同じですが、ちょうかいネットへの参加は患者さん、ご家族の情報を病院と診療所で共有するにとどまらず、医師としての生涯学習にとっても有用なツールだと感じております。私の医院では500名程の患者さんを登録して活用しています。会員の皆さまも是非、自院の多くの患者さんを登録していただきたいと思います。鶴岡地域がICTを上手に利用した先進地域となることを夢見ています。

以下は、事例発表の主な内容です。

演題1（酒田）：「登録患者・アクセス数からみた『ちょうかいネット』の現状」

日本海総合病院 副院長 島貫 隆夫 氏

稼働して3年間、利用者は順調に着実に増加しています。登録患者数は10638人（2014年2月1日現在）。開示施設は4か所で1患者を3医療機関へ登録するパターンが多くリハビリテーション病院での登録が増えています。

登録患者数10-33の施設が多く、登録患者数が多い医療施設の登録は多い傾向にあります。（ヘビーユーザーが存在している）



登録患者数とアクセス数では、病院からのアクセスの変化はないが、診療所のアクセス数は伸びています。項目別では、診療録が画像より多く閲覧されており、特に本間病院での診療録参照が多いです。病診連携では診療録、病病連携では画像参照が多い傾向があります。訪問看護ステーションのアクセスが増えてきています。

Participant機能（参加医療機関へ情報の登録をメールで周知する機能）があり、今後周知していきたい。

課題としては利用機関の伸び悩みがあり、それを解決するためには相互の情報のやり取りが必要です。参照施設からの情報提供、診療予約のシングルサインオン、診療所の電子カルテの相互乗り入れ、ちょうかいネットからの予約も可能とするなど検討していきたい。



演題2（酒田）：「ワクワク ドキドキ ちょうかいネット」

さとう内科クリニック 院長 佐藤 顕 氏

ちょうかいネットのある暮らしと題して、診療所の1日を目で見える形で示していただきました。病院へ紹介・入院となった方の「その後」がほぼリアルタイムで参照できます。朝起きるとまず、病院「バーチャル回診」を行い、患者さんのその後を閲覧します。日中の診療でも、病院での検査や内服薬の確認、急患室へ紹介したその後をすぐを知ることができます。強調されていたのは、とにかく「病名」をつけてみる。限られた情報、知識から絞り出した診断をつけることで、その後を「わくわく、ドキドキ」確認する。正答もあればとんでもない病名が判明することもあります。また同じ症状に遭遇した場合はその経験が役にたつ。まさに仕事をしながらの生涯学習ですね。

NHKの「ドクターG」の研修医の真剣な表情が思い出されました。

演題3（酒田）：「ケアマネから見た医療介護連携における

ちょうかいネットの役割について」

酒田市ケアマネジャー連絡協議会 会長

安藤 早苗 氏（在宅介護センターかたばみ荘）



酒田市ケアマネ連絡協議会には94事業所、246名で役員会5回、研修会3回を行っています。連携についての課題を整理していく中で、ちょうかいネットの閲覧を通じて、知り得た情報を判断し理解ができるのか、介護系ケアマネが多く専門用語が障害になっている面も多々あるとのことでした。

時期尚早と判断したがトライアルとして、6名を登録して活用を試みました。（筆者注：安藤さ

んは看護師の資格を有するケアマネです) その感想ですが、メリットとしては、正確、最新、処方内容担当医が着目している症状、複数科の診療情報を知り得てタイムロスが少ないこと。

デメリットは、生活面での情報が少ない、まだ看護記録が閲覧できないため温度版情報などが不足している。情報が一方通行、顔の見える関係が希薄で医療知識が乏しく理解が難しい。

個人情報の取り扱いについては、ケアマネの個人情報保護「秘密保持」がうたわれているし、介護職にも、守秘義務があり医療職と同様の認識をしています。これからの拡大に向けて取り組んでいきたい。



演題 4 (鶴岡): 「荘内病院における医療情報ネットワークー病病連携を中心にー」
荘内病院 外科系診療部長 佐藤 和彦 氏

荘内病院でのちょうかいネットの登録数は772件で日本海総合病院との病病連携数は93件であり、緊急システム利用は14件であるがとても利便性がありました。緊急対応をした2例をあげ、事前登録の省力化を行い、よりスピード感を持った対応が可能になっている。iPadを利用した携帯(タブレット)端末もこのスピード感から必要であり、今後の更なる利用を期待しています。

画像に関しても現在の仕様では診断や手術の術式決定に関しての遜色はないとのことでした。

演題 5 (鶴岡): 「回復期病院における、庄内地域医療情報ネットワークツール
“Net4U” と “ちょうかいネット” の利用方法」

湯田川温泉リハビリテーション病院 院長 武田 憲夫 氏

最大の課題は、紙カルテとの二重登録で今後新病院への移行時にハード面は解決の方向へ向かうことを期待しています。

Net4Uを使った在宅患者さんへのリハビリサポートとして、訪問、評価、アドバイス等を行っています。ちょうかいネット(ID-Link)は来院前に荘内病院等の急性期病院の情報が収集でき、また退院後の患者情報を知ることもできます。

リハビリは希望と元気を与えよう 希望と元気は、回復のエネルギーですというメッセージをいただきました。



演題 6 (鶴岡): 「介護支援専門員としてのNet4U活用術」

地域包括支援センターあさひ 所長 小野寺幸則 氏

居宅介護支援センターであればケアマネ5名体制で、Net4U 22件を登録しています。地域包括支援センター あさひは1.6人体制でNet4U 25件を登録、連携ツールとして活用しています。幸い、連携医はNet4Uを積極的に活用している医師であり顔が見えて信頼できる関係にあります。

事例は、88歳の女性で経口摂取不能ながらも自宅での看取った例で、Net4Uを使って関係機関で情報を目で見て確認、共有ができました。時間的制限がなく困ったことがあれば、Net4U上で相



談、支援方法が聞けて便利でした。

システムが「タダ」で使えるのもいいし、いつでも主治医とつながっている安心感がありました。最新の医療情報に接する機会もあり、質の向上とかスキルアップにもつながりました。今後の多職種の連携を行う上で、地域包括ケアシステムでも有用であろう。

二重の入力の手間については、介護システムからNet4Uをコピーしているので思ったほど入力への負担感は少なかった。課題は、Net4Uを利用している主治医がまだまだ少ないことです。是非加入していただき私たち介護系スタッフと連携を取り合っていただきたいです。今後を期待しています。

(まとめ) 医療情報ネットワークは、構築しただけでは機能しません。地域全体に広めていくためには、顔の見える関係作りを並行して行う必要があります。

名前がわかり面識のあるレベルを超えて、その仕事の内容を知り信頼感を持って連携ができる関係づくりが必要です。その意味でも、このような研究会を定期的で開催し、事例を報告しながら情報ネットワークの活用状況を評価していくことは重要と考えています。

一方で、在宅医療における、多職種チームによるコミュニケーションを重視した医療介護連携には、ちょうかいネットだけでは限界があり、Net4Uのような地域密着型のシステムがとても有用と感じています。

脳卒中地域連携パス「わたしの健康ノート」の運用を開始します

庄内南部地域連携パス推進協議会

脳卒中個別パス委員会委員長 佐藤 和彦

庄内南部脳卒中地域連携パスは平成20年12月から運用を開始し、脳卒中により鶴岡市立荘内病院に入院したすべての患者さんを登録し、平成26年3月末までで2,829件となりました。

このたび、庄内南部地域連携パス推進協議会脳卒中個別パス委員会が中心となり、患者用パス「わたしの健康ノート」を作成いたしました。

脳卒中再発予防のためには患者さん自身が日々の健康チェックと学習を行い、健康に責任を持つようになることが必要です。このノートは、患者さん本人を含め、関わる全ての人が情報共有できるようにと作成されております。

大きくは、以下の3点を目的とします。

- ① 「脳卒中パスご本人・ご家族用」は患者さん・ご家族が急性期・回復期・維持期

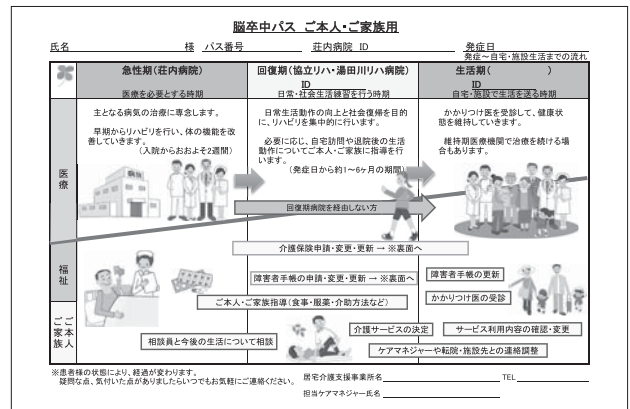
(生活期)での治療やリハビリについて知ることにより、不安を解消してもらう。

- ② 介護保険など公的手続きについて理解してもらう。

- ③ 血圧チェックグラフと自己チェックシートを用いセルフチェックすることで、健康の自己管理能力を身につける。

この他、健康づくりに役立つ転倒予防体操の紹介や薬の話などの資料も入れ、患者さんご本人だけでなくご家族や関わる医療者・介護者にも健康づくりの意識を高めていただけたらと思っております。

なおこのノートは4月からテスト運用を開始したところで、開業医の皆様のもとにもこのノートを持った方が訪れるかもしれません。後日改めて説明会等も行う予定ですが何卒よろしく願いたします。



脳卒中パスご本人・ご家族用

血圧チェックグラフ(家庭用)

① 測定はできるだけ一定の条件で、行ってください。朝と夜それぞれ1回ずつ測定し、グラフに記入してください。
 ② 朝は目覚めてから1時間以内、でトイレを済ませた後、起床後、昼と1-2分の安静後に測定してください。
 ③ 夜は就寝前の安静な状態で測定してください。

日付	記録時刻	朝	夜	朝	夜	朝	夜	朝	夜	朝	夜	朝	夜	朝	夜
収縮期血圧	135/130														
拡張期血圧	85/85														

血圧チェックグラフ

庄内南部脳卒中地域連携パス 自己チェックシート

通病/パス番号 _____ 氏名 _____ 身長 _____ cm 標準体重 _____ kg

◎ 良好 ○ まあまあ △ 不十分 標準体重(身長²×7) 1m×22= _____ kg ※月に1回自分でチェックしましょう

項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
生活期																				
血圧																				
生活機能																				
生活期																				
生活期																				

自己チェックシート

新入会員の紹介



氏名：^{かわ} ^{かみ} ^{ひて} ^{のり} 河上英則
 生年月日：昭和55年5月17日
 生まれた所・育った所：
 新潟県妙高市
 勤務先・診療科目：
 鶴岡市立荘内病院 呼吸器科
 出身校：新潟大学
 趣味・特技：スポーツ観戦

医師会 ニューフェイス

①氏名 ②所属 ③趣味・特技 ④ひとこと



① ^{わた} ^{なべ} ^{ひろし} 渡部 弘
 ② 湯田川温泉リハビリテーション病院
 薬剤科 薬剤師
 ③ ドライブ、映画鑑賞、読書
 ④ 初心に戻って、一からやりたい
 と思います。よろしくお願いします。



① ^み ^{うら} ^み ^く 三浦美紅
 ② 荘内地区健康管理センター
 事業推進課 企画調整係 一般職
 ③ スポーツ観戦、ボルダリング
 ④ 少しでも早く仕事を覚えられ
 るように頑張ります。ご指導の
 ほど、よろしくお願い致します。



① ^{すが} ^{わら} ^ゆ ^み 菅原由美
 ② 在宅サービスセンター
 訪問看護ステーションハローナース 看護師
 ③ 散歩
 ④ 出来るだけ勉強会などに参加し、
 スキルアップを図っていきたく
 思います。よろしくお願いします。



① ^{おし} ^{きり} ^{しゅん} 押切 瞬
 ② 湯田川温泉リハビリテーション病院
 リハビリテーション課 作業療法士
 ③ スポーツ（ランニング、バスケ、
 スノーボードなど）
 ④ 常に笑顔を忘れず、精一杯頑張
 ります。よろしくお願いします。



① ^さ ^{とう} ^ま ^み 佐藤 摩美
 ② 湯田川温泉リハビリテーション病院
 リハビリテーション課 作業療法士
 ③ 音楽鑑賞、ピアノ演奏
 ④ 笑顔で明るく、日々精進でき
 るよう努力していきたいと思
 いますので、御指導の程よろ
 しくお願い致します。



① ^あ ^べ ^{さくら} 阿部 桜
 ② 湯田川温泉リハビリテーション病院
 看護課 看護師
 ③ ドライブ、料理、DVD鑑賞
 ④ 患者様やスタッフのみなさん
 に信頼されるように日々努力し、
 たくさんのことを学んでいき
 たいです。よろしくお願い致
 します。



① ^こ ^{ばやし} ^{まさ} ^と 小林 真人
 ② 湯田川温泉リハビリテーション病院
 看護課 介護福祉士
 ③ 楽器演奏、音楽鑑賞
 ④ 1日も早く、仕事に慣れ、介
 護福祉士として支援してい
 けるよう精一杯がんばりたい
 です。よろしくお願い致します。

マキ わたしのお気に入り

マキは飼い犬です。2年前に生後1年2ヵ月で我が家に来ました。

以前、マイペットの欄でご紹介した先代のゴールデンレトリバーが9歳で亡くなり、その1ヵ月後でした。2代目は譲渡犬にする約束になっていて、民間の団体から紹介されました。ゴールドンドゥードルという犬種で、ゴールデンレトリバーとスタンダードプードルのミックスです。毛の抜けないゴールデンを目的につくられました。稀に毛の抜けるドゥードルが生まれるそうです。

ブリーダーの犬舎にはこうした売れない犬が残りますが、マキはその1匹でした。プードルの巻き毛が少し残っていて、コマキと呼ばれ、我が家ではマキとなりました。すぐに家族には慣れてゴールデンらしく従順で愛嬌たっぷりになりましたが、生後1年以上犬舎で過ごしたマキは社会性がなく、知らない人や犬を極端に怖がるビビリです。近寄ってくる人に対して飛び退いて逃げようとします。いろいろな方から「驚かせてごめんなさい」と謝られてしまいます。譲渡時の約束で室内犬です。「家中毛だらけ」と掃除に忙しい妻の愚痴を聞きながら、居間でドテッとのおんびり毎日を過ごしています。



「子どもが生まれたら犬を飼いなさい」(英国?のことわざ)

子どもが生まれたら犬を飼いなさい。

子どもが赤ん坊の時、子どもの良き守り手となるでしょう。

子どもが幼年期の時、子どもの良き遊び相手となるでしょう。

子どもが少年期の時、子どもの良き理解者となるでしょう。

そして子どもが青年になった時、自らの死をもって子どもに命の尊さを教えるでしょう。

(おのこども診療所 小野 俊孝)

表 紙

「夕 日」

佐藤 元昭

平成25年12月鼠ヶ関の夕日を18枚撮った中の1枚です。低気圧が去ったあとの夕日が美しいと思いました。

年を取ると単純なものを集中して眺める様になりました。

編 集 後 記

桜の蕾も膨らみ開花が待ち遠しい時期になりました。皆様お元気でお過ごしでしょうか。

今月号の誌面には生活習慣病と下部尿路疾患の関連性についての講演抄録や健康管理センター30周年記念祝賀会の模様、脳卒中パス患者に使用予定の「わたしの健康ノート」の紹介、そして庄内地域医療情報ネットワーク研究大会のレポートなどが掲載されております。ちょうかいネットやNet4Uというツールが庄内地区の医療間連携、医療と介護の連携に役立っているだけでなく、診療所医師も入院診療を閲覧することで自らの診療を振り返る学習効果もあるという事例報告など興味深く読ませて頂きました。

さて先月は、ほたる主催の第1回目となる公開講座「認知症を正しく知ろう」に参加して来ました。認知症患者家族の方が特別講演で「病院で認知症の診断を受けて治療は始まったが、本人や家族が認知症にどう向き合っていけばいいのかアドバイスがなく、それが欲しかった」と切実に語られ、この方は「家族の会」に悩みを相談することで介護支援に繋がったとのことでした。認知症支援には医療と介護の隙間を埋める相談窓口が必要で、地域担当保健師や地域包括支援センターがその役を担うことも今回知ることができました。相談窓口があることを対象となる家族が知らないで困らないように、様々な形で広報して頂きたいと思いました。

まだ朝晩は冷えますので、皆様、お体にご自愛くださいますようお願い申し上げます。

(今立 明宏)

編集委員：伊藤 茂彦・福原 晶子・石原 良・中村 秀幸・斎藤 高志・今立 明宏

発行所：一般社団法人鶴岡地区医師会 山形県鶴岡市馬場町1-34

TEL 0235-22-0136 FAX 0235-25-0772 E-mail ishikai@tsuruoka-med.jp

ホームページにも掲載しております

鶴岡地区医師会  <http://www.tsuruoka-med.jp>

印刷所：富士印刷株式会社 鶴岡市美咲町27-1 TEL 22-0936(代)